

[平成17年第 3回 5月臨時会—05月31日-02号]

◆14番（松坂知恒議員） 市民・民主フォーラムの松坂でございます。

平和コンサートについて賛成の討論をいたしますが、いろいろ議員各位の御議論をお聞きしまして、思うことをお話したいと思っております。

この平和コンサートの目的は、市長の説明によりますと、原爆犠牲者の慰霊と平和発信というヒロシマの使命を誠実に果たすということです。

私は、原爆犠牲者の親族の一人として思うことがございますが、両親とも、中区に当時住んでおりました、父方も母方も一家皆被爆いたしました。父方は、幸い、けがはしましたが亡くなる者はいなかったんですが、母方は、母方の祖母と、私から見ればおじなんですけど、下敷きになりまして、祖父が助けようとしたんですけども、なかなか下敷きになって助けられんと。意識もあって話もしておったんですけど、火が回ってきて、祖母が、もういいから逃げてくれと祖父に言いまして、やむなく祖父はその場を離れたという、大変痛ましい出来事だったと。

多くの被爆者の方が、同じ、同様の話を、私もいろんな場面でいろんな方々から聞いておりました、同じようなお気持ちでいらっしゃるのではないかというふうに思うんですけども、その犠牲者の親族として思うことは、毎年8月に広島市民の皆さんを初めとして、世界のさまざまな国、地域の方々が犠牲者を慰霊して弔ってくださるということは、本当にありがたいことだと感謝しておるわけでございます。

その中で、今回、8月5日のコンサートの内容についても少し触れたいと思うんですけども、コンサートに合唱団として参加される方々から、私個人的にも、ぜひ実現してほしいと、議会で認めてほしいという御要望をいただいております。これは非常に熱心な声としてうかがっておるわけなんですけれども、その慰霊の場で歌を歌うということなんですけど、私が思い出すのは、これも身内のことで恐縮ではあるんですけど、父方の祖母のことでございます。祖母は、被爆しました後、目が見えなくなりまして、それで、その後、完全に失明した後、毎週日曜日に教会に通っておりました。そこでいろいろお話を聞いたりして帰ってきておったんですけど、亡くなりまして、お葬式をすることになりまして、教会の牧師さんがそのお葬式をやってくださったんですけども、その葬儀の場で、牧師さんが、祖母が好きだった賛美歌、「慈しみ深き」という曲なんですけども、それを合唱しましょうということで、私も知っておりましたので一緒に歌ったんですけど、歌い始めてすぐ、何とも言えない感動が体の中から突き上げてくるような思いがいたしまして、涙があふれてとまらなくなりました。歌い終えて少し落ちついたんですけど、最後のお別れのときに、もう一度牧師さんが、好きだった「慈しみ深き」をもう一度歌いましょうということで、また歌ったんですけど、また涙があふれてとまらなかったと。

今回の慰霊の場で「マタイ受難曲」を合唱するというので、練習されている皆さんも、

その練習を通して、えも言われぬその感激というのを体験されているのではないかと私は想像するわけでございます。やはりその体験されている感激を8月5日のコンサートに向けて、私としては昇華していただきたいと、より高いものに高めていただきたいと心から思います。それは、人から言われたということではなくて、やっぱり練習をしている御自身で、練習を重ねていく中で、やはりこれはやりたいんだと、そういうコンサートの場で、自分たちの思いと感情というものをあらわさせてほしいという思いの陳情ではないかというふうに思うわけでございますけれども、そういうコンサートの場で、合唱団や歌手の皆さん、それから演奏者、指揮者、聴衆、そして、またそれを取り巻く多くの市民とか世界各地の人たちが思いを一つにして、犠牲者の慰霊と平和の実現を願ってくださると、そういう機会をぜひ実現させるということが、非常に大切なことではないかというふうに思うわけです。

ほかにも多くの催しがありますし、また、先ほどお話があったように、お一人でそっと祈りをささげたいという方もたくさんいらっしゃる。そういう思いもあるということは承知しております。さまざまな形でそれぞれの思いをあらわしていただければというふうに思うんですけれども、そういうさまざまな形の中の一つに、8月5日の平和コンサートというものを加えていただきたいと、そういう非常に素朴な思いを込めまして、私の討論を終わらせていただきたいと思います。

どうも、御清聴ありがとうございました。